



**PRESS RELEASE (2014/07/25)**

## 世界トップレベルの国際交渉力を持った人材を育成 — 法学部新コース “Global Vantage Program” がスタート —

### 概要

九州大学法学部は、平成 27 年度から、“Global Vantage Program (GV プログラム)”を開始します。これは、①入試段階から法学部生としての資質＋一定の語学力を要求し、②少人数チュートリアル教育で語学向上や最適な留学のプログラムを用意し、③九州大学 LL.M. (国際法学大学院) への進学まで含めた一貫教育を行う、新しい入試－教育コースです。

これにより、国際ビジネスにおいて必要とされている、世界トップレベルの国際交渉力を持った人材「グローバル・ローヤー」を育成します。

### 背景

日本では、これまで、弁護士としての資格を持たないビジネスマンが、企業内教育を経て、国際的な法的交渉を担う傾向にありました。しかし、労働市場の変化によって企業内部での人材育成が徐々に困難となり、少子高齢化によって国内市場が縮小し、また国際ビジネス競争が激化する現在にあっては、国際経済ビジネスのシーンにおいて、専門家として国際的な法的交渉ができる人材「グローバル・ローヤー」を、大学が育成する必要があります。

対して、日本の大学の法学部では、これまで、法的素養を身につけ、どんな分野・部署でも能力を発揮できる、いわゆる「ジェネラリスト」を養成してきました。しかし今や、企業は即戦力を求め、社会または受験生も、職業に直結する教育を求めるようになりました。

GV プログラムは、この時代状況を受けて、社会・企業・学生が要請する新たな法学教育の姿を体現し、基本的な法的素養の涵養に加えて、国際経済ビジネスの現場で即戦力となるグローバル・ローヤーの育成を目的とした、学部－大学院一貫国際ビジネス法プログラムです。

この GV プログラムについては、すでに別紙 (平成 23 年 11 月 21 日付けプレスリリース) で、その概要をお伝えしておりましたが、プログラムの具体的内容がほぼ固まり、平成 27 年度入試 (平成 26 年度に実施) からコースが開始しますので、改めてその具体像をお伝えします。

### 内容

- ① 九州大学法学部は AO 入試 (センター試験を課す AO 入試) を開始します (募集定員 10 名)。
  - ・ センター試験に加えて、一次審査では英語能力試験のスコア (TOEFL500 点相当程度) や志望理由書なども審査します。
  - ・ 二次審査では、英語学力試験 (日本語小論文含む) と、日英 2 か国語での面接を、福岡と東京の 2 会場で行います。
- ② 法学部では、少人数チュートリアル教育によって、法学教育および語学教育を充実します。
  - ・ 世界中の大学院に進学可能なレベルまで英語力を向上させるよう (TOEFL PBT580 点以上を想定)、少人数ゼミ、英語外書講読、外国人教員によるゼミナール等の履修指導を行います。
  - ・ 複数回の海外エクスターンシップ、短期留学を行うほか、一人ひとりに最適な留学計画を指導します。
  - ・ 個別学習指導を行う専門チューターを設置することで、法学・語学の修得を確実に行ってもらいます。
- ③ 九州大学 LL.M. へ進学し、1 年間の高度専門教育を行います (必須ではない)。
  - ・ 九州大学 LL.M. は、英語だけで全ての指導が行われる、日本初の国際法学大学院であり、20 年以上の実績があります。
  - ・ 学生は、世界中から集まった各国の法曹や官僚等のエリートです。GV プログラムの学生は、これらの学生を同級生として、国際経済ビジネス法について高度な知識を修得します。

- ・ 国際ビジネスの現場で不可欠な、修士の学位を取得します。さらに進学希望があれば、博士号の取得まで可能です（九州大学 LL.D.）。

（GVプログラムの詳細は、<http://gv.law.kyushu-u.ac.jp/>をご参照下さい。）

## ■効 果

GVプログラムの実施により、以下のことを実現します。

- ・ 社会で必要とされる、法的素養と国際交渉力を兼ね備えた人材を輩出します。  
ここで「法的素養」とは、伝統的な憲法・民法・刑法等にとどまらず、最先端の知的財産法、国際私法、国際取引法等のような高度な応用力も含みます。  
また、「国際交渉力」とは、単なるコミュニケーション力ではなく、英語での交渉、契約書の起草、各国での法適合性調査、国際ルール策定への参加が可能な能力を指します。
- ・ 海外エクスターンシップや留学等に対する経済的支援、日本での就職活動等にも適合した学修スケジュールを用意することで、日本の学生が安心して選択できる高度なグローバル人材プログラムを実現します。
- ・ LL.M.のOB/OGによって形成された、"KYUDAI-LL.M. network"に参加することにより、国際経済ビジネスでの活躍のチャンスを提供します。

## ■今後の展開

- ・ 九州大学法学部・大学院法学府が先行して取り組んでいる国際コースや、「大学の世界展開力強化事業」と連動して、より質の高い国際的法学教育の実現を模索します。  
（詳細については、以下の URL をご参照下さい）  
<http://www.law.kyushu-u.ac.jp/programsinenglish/>  
<http://www.law.kyushu-u.ac.jp/sekaitenkai/>
- ・ 法学部における今後の早期卒業制度（飛び級制度）の整備と連動して、より柔軟で、個々の学生のニーズに合った学修スケジュールの策定が可能な環境を整えます。
- ・ 企業等との連携を通じて、海外でのインターンシップを充実させるほか、学生のキャリア形成支援に努めます。

**【お問い合わせ】**

法学研究院 教授 五十君 麻里子（いぎみ まりこ）

電話：092-642-3203

FAX：092-642-4162

Mail：igimi@law.kyushu-u.ac.jp

**PRESS RELEASE (2012/11/21)****AO入試を伴う国際人材育成のための法学部・LL.M.（英語による法学修士課程）  
一貫教育プログラムの創設について****概 要**

九州大学法学部では、日本人学生を国際人として養成することを目的に、一般入試と並び、学部特別入試（募集人員10名）をAO入試（大学入試センター試験を課す）として、平成27年度入試から実施します。この新入試によって入学する学生には、通常の法学部のカリキュラムの範囲内で国際性と英語力を涵養する授業を積極的に提供する他、複数回の留学機会を確保し、一貫教育プログラムの最終年度には外国人留学生とともに英語のみで「修士（法学）」の学位を取得できるよう、少人数指導を行います。

**■背 景**

九州大学法学部は、平成12年全国の国立大学に先駆けて、AO入試を導入しました。しかし導入から9年後の平成21年、当初の狙いであった「ユニークな人材の獲得」が、受験対策の徹底等によって困難になったため、これを廃止いたしました。

もともと、本学法学部は「ユニークな人材の獲得」をあきらめた訳ではありません。現在の社会で囁望される「ユニークな人材」とは、海外に市場を求める日本企業やグローバル企業で、法律家として活躍できる即戦力の法律グローバル人材であるとの結論に達し、そのような夢を持った受験生のために、新たにAO入試を復活させます。

九州大学大学院法学府では、平成6年に英語のみで「修士（法学）」の学位を取得できるLL.M.コースを我が国で初めて設置し、以来、世界約50の国と地域から400名を超える卒業生を輩出して、欧米トップ大学のLL.M.コースに匹敵する実績を挙げてきました<http://www.law.kyushu-u.ac.jp/programsinenglish/>。過去18年間にこのコースで学んだのは、たった1人の日本人を除き、全て外国人で、さながら日本の中の小さなグローバル社会となっており、世界中に卒業生のネットワークが広がっています。このようなLL.M.コースに日本人学生を受け入れ、法学部との一貫教育を通じて、「法律的専門性を持つグローバル人材」を育成することができるのは、国内では九州大学法学部だけです。

**■内 容**

- 学部AO入試（詳しくは<http://www.kyushu-u.ac.jp/entrance/examination/index.php>)
  - 出願資格として、英語能力試験の成績がTOEFL500点程度以上であることを課します。
  - 書類審査による第1次選抜を行います。
  - 大学入試センター試験を課します。
  - 英語学力検査と面接による第2次選抜を、福岡と東京の2会場で行います。
- 学部カリキュラム  
AO入試で入学した学生は：
  - 1年次から、基幹教育（平成23年9月13日プレスリリース）の枠内で英語力や国際性を涵養する授業を履修します。
  - カリキュラム外で、LL.M.コース教員による少人数教育を受けます。
  - 2年次～4年次には、通常の法学部のカリキュラムにより、しっかりと法学の基礎を身につけます。この間、特別に指定されたゼミナールに所属し、LL.M.コースに進学するための専門的な英語力を磨き、国際経済ビジネス法の基礎知識を体得します。
  - LL.M.コース在籍等の外国人留学生とともに学びつつ交流する様々な授業やイベントに参加します。

- 留学

さらに、本プログラムに所属する学生は：

- 文部科学省「大学の世界展開力強化事業」に採択された「スパイラル型協働教育モデル：リーガルマインドによる普遍性と多様性の均衡を目指して」(平成24年10月17日プレスリリース)のプロジェクトとして、タイ、フィリピン、マレーシア、シンガポールへの短期留学に複数回参加します。
- その他、学生交流協定締結校への交換留学生として短期または長期で留学し、留学が当たり前の環境で学びます。

- LL.M.

- 九州大学のLL.M.コースは、文部科学省の「国費留学生の優先配置を行う特別プログラム」に採択されており、優秀な外国人留学生が学んでいます。日本人学生も一緒に切磋琢磨する事ができます。
- 授業は、専任の外国人教員及び日本人教員、さらには内外の研究者や実務家によって全て英語で行われ、修士論文も英語で執筆します。
- 授業は、最先端の国際経済ビジネス法分野に関連する諸科目で、実務にも直結するものです。

- 修了

- 学部卒業時には「学士（法学）」の、LL.M.コース修了時には「修士（法学）」の学位が与えられます。
- 本プログラムの学生も、LL.M.コースに進学せず法学部卒業生として、法科大学院など別の進路を選ぶ事も可能です。
- LL.M.コースを修了すると、世界中に広がる、閣僚や政府高官を含む Kyudai-LL.M.ネットワークの一員として、国際的に活躍する事が期待されます。

## ■効果

法律的専門性をもった日本人グローバル人材を輩出することで、国際社会における日本のプレゼンスを確保するとともに、ひいては国際社会の協調的発展に寄与できると考えています。

## ■今後の展開

平成25年4月に専用のホームページを開設し、順次更新する予定です。

なお、平成27年度入試までの間も、LL.M.コースの通常の選抜では日本人も受け入れます。平成24年度から、社会人向けに、LL.M.社会人選抜を導入し、英語力と専門性を磨く機会を用意しました。さらに、法学部でもすでに上記カリキュラムの整備を始めていますので、九州大学法学部に入学しこれらを履修すると、LL.M.コースへの近道となります。

### 【お問い合わせ】

法学研究院 教授 五十君（いぎみ）麻里子

電話：092-642-3203

FAX：092-642-4162

Mail：igimi@law.kyushu-u.ac.jp

(授業や会議で電話に出られないときがあります。  
できるだけメールをご利用ください。)



# 九州大学法学部

Kyushu University Faculty of Law

## G.V.(Global Vantage)プログラム

九州大学法学部は2015年春から、  
新AO入試を開始します。

この入試で選ばれた10人は、まず法学部で  
法学の基礎を身につけ、その後、外国人留学生とともに  
英語のみで国際経済ビジネス法を学んで、  
専門性と国際性を身につけます。

将来グローバル社会での活躍を夢見る  
高校生・受験生のみなさん、  
夢を現実に変えてみませんか？

2015春スタート



Be One of Ten

[www.law.kyushu-u.ac.jp/gv](http://www.law.kyushu-u.ac.jp/gv)







「提供:福岡市」

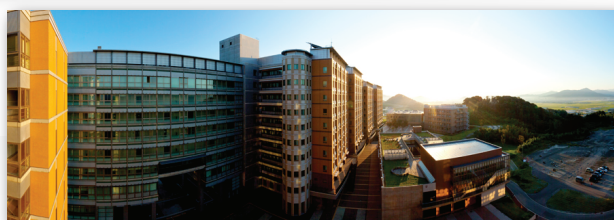
## 新AO入試 高いハードル・高い理想

- ✓ 1次試験は英語能力試験(TOEFL PBT 500点相当程度)を含む書類審査で
- ✓ センター試験を課し、基礎学力も審査
- ✓ 2次試験は英語(日本語小論文を含む)とバイリンガル(英語・日本語)面接
- ✓ 2次試験を福岡と東京で実施
- ✓ 2015年度入学者募集定員は10名

<http://www.kyushu-u.ac.jp/entrance/examination/H27yokoku-hougakuAO.pdf>

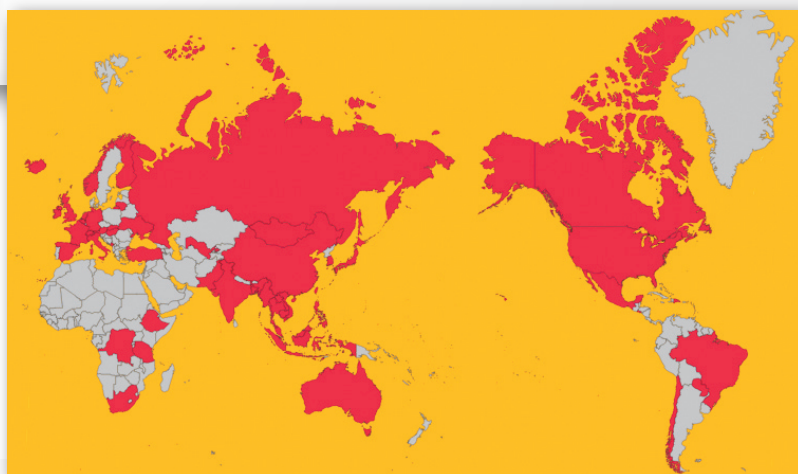
## 法学の基礎を九大法学部で

- ✓ 法学は体系の学問→全体像を母語で
- ✓ 伝統ある国立大学で充実した基礎教育
- ✓ 少人数チュートリアルによるきめ細かな指導
- ✓ 外国人教員等による英語での法学基礎教育
- ✓ 留学機会の確保



## LL.M. 日本の中の小さなグローバル社会

- ✓ 日本初の英語による法学修士プログラム
- ✓ 1994年以来400名を超える修了生、そのほとんどが外国人
- ✓ 国際経済ビジネス法の最先端を世界の第一人者が講義
- ✓ 各国のエリートがクラスメイトに



## Q&A

Q. LL.M.学生の出身国はどこですか？

A. 地図の赤い部分の通り、世界50を超える国と地域です。  
日本からは現在まで、2名に止まっています。

Q. なぜ入試で高い英語力を求めるのですか？

A. LL.M.の英語要件がTOEFL PBT580以上なので、学部の中にこのスコアに到達するためには500が最低ラインです。  
LL.M.では全ての授業が英語で行われますし、論文も英語で書きますから、高い水準が必要になります。

Q. なぜ留学を義務化しないのですか？

A. 少人数教育で「留学が当たり前」の環境を作りたいから。留学は義務でなく権利と捉えて良いでしょう。